



Atsugi City
Carbon
Neutral
Road
map

カーボンニュートラル ロードマップ 2022年度 厚木市

カーボンニュートラルとは、大気中に排出されるCO₂と森林によるCO₂吸収量等が均衡している状態のことです。

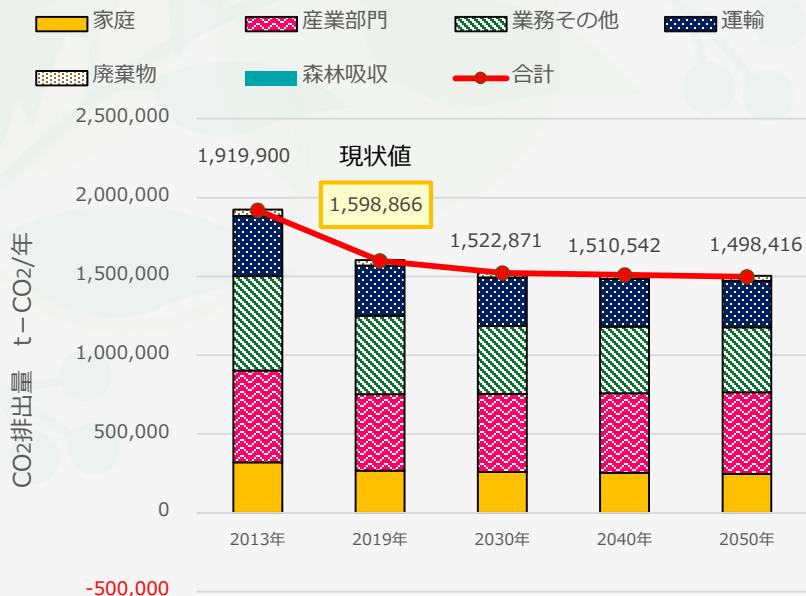
厚木市は、2050年までにカーボンニュートラルを達成することを目標としたゼロカーボンシティを表明しています。

これを達成するためには、CO₂排出量の8割を占めるエネルギーを再生可能エネルギーに変え、大幅な省エネを行う必要があります。

このロードマップでは、いつまでにどれだけ再生可能エネルギーを導入し、いつまでにどれだけ省エネを行えばカーボンニュートラルを達成することができるのか道筋を示すものです。

1 厚木市ではどれくらいCO₂が出ているの？

厚木市のCO₂排出量は、約1,599千tです。

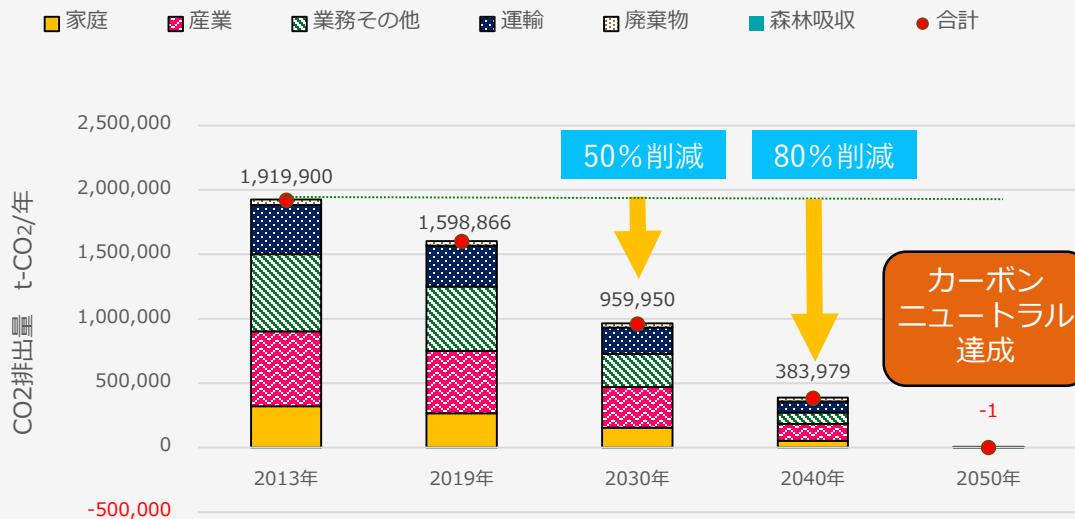


何も対策をしない場合は、ほぼ横ばい。再エネ+省エネを大胆に進め、CO₂排出量を減らすことが必要！

2 いつまでにどれだけCO₂を減らすの？

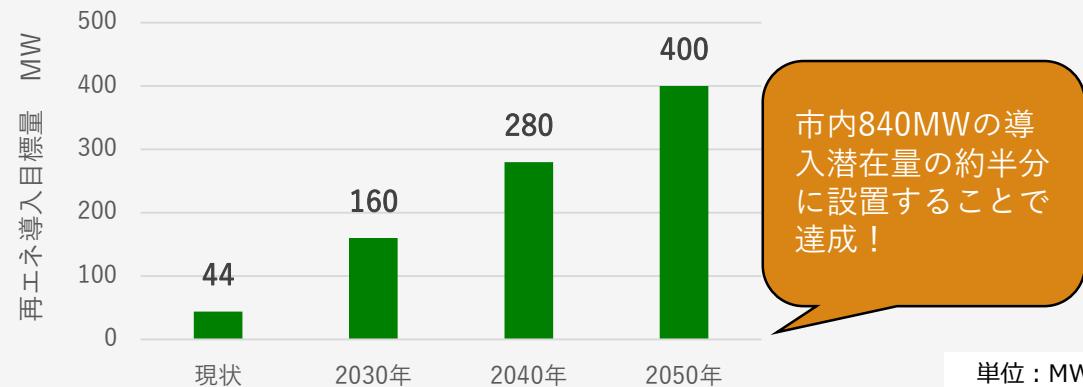
2030年度に50%・2040年度に80%減らすことが必要です。

※2013年度比



3 必要な再生可能エネルギー導入量は？

2050年までに太陽光発電400MWの導入が必要です。



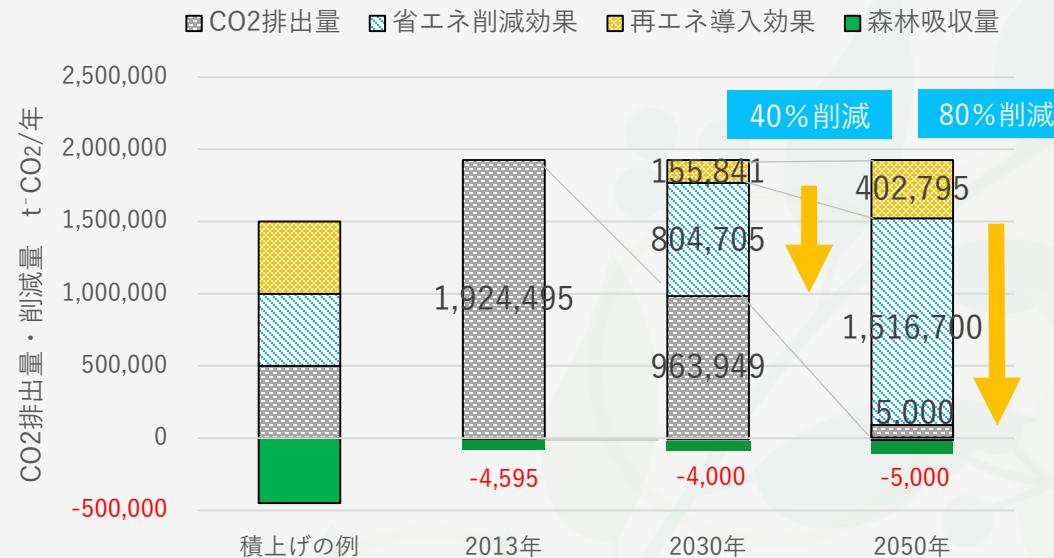
市内840MWの導入潜在量の約半分に設置することで達成！

2030年度の目標達成には、現状の3.7倍の設置が必要！

設置場所	既設	新設	合計
事業所	10	65.5	75.5
家庭	19.5	20	39.5
土地 (遊休地等)	14	31	45
合計	43.5	116.5	160

4 どれだけ省エネすればいいの？

2030年度に40%・2050年度に80%の省エネが必要です。



※再エネ導入効果は購入電力の再エネ比率も考慮した計算となっています。

ロードマップの全体像

単位 千t-CO₂/年
削減目標値と対2013年度削減率

省エネによる削減

再エネ導入等による削減

※合計値は、四捨五入の関係で各部門等の合計と一致しない場合があります。

家庭部門

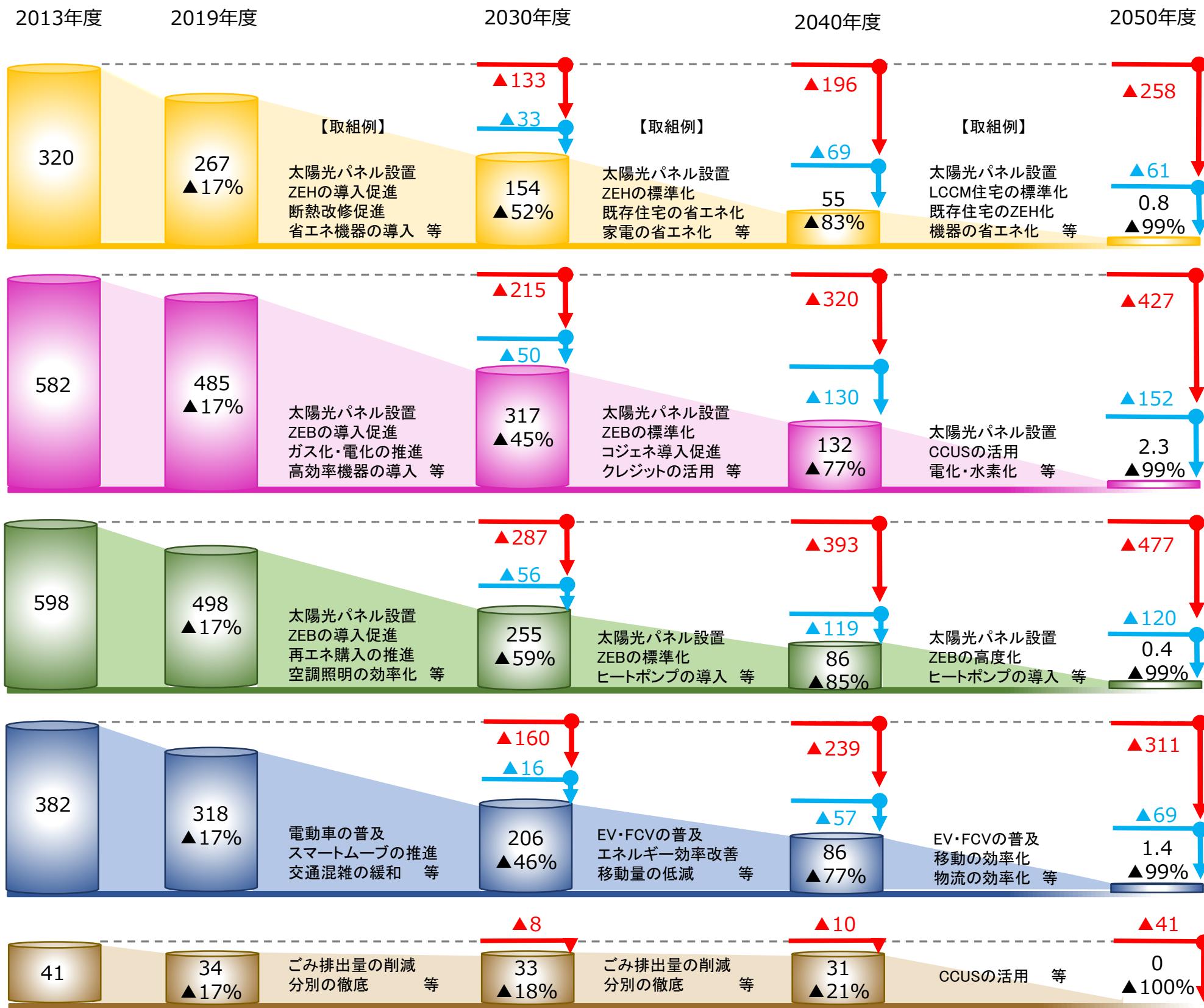
産業部門 (農林水産業、建設業、鉱業、製造業)

業務その他部門 (事務所、店舗、ホテル、学校、公共施設等)

運輸部門 (自家用車含む)

廃棄物

削減率 (吸収含む。)



専門的な用語については、裏表紙の用語解説を御参照ください。

2050年 カーボン ニュートラル

CO₂ 排出量 5

▲ 5 森林 吸収量

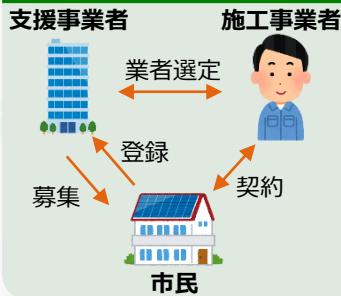


内訳

6 再エネを増やすにはどうしたら良いの？

～ 家庭 ～

共同購入



太陽光発電の購入希望者を募り、スケールメリットを活かした価格低減モデル

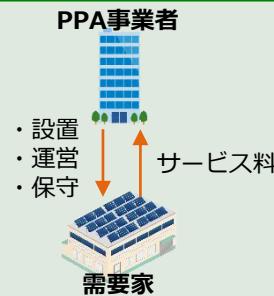
ゼロ円ソーラー



神奈川県が推進している初期費用0円で太陽光発電が設置できるモデル

～ 企業 ～

PPA事業者



PPA事業者が太陽光発電を無償設置し、毎月の電気使用量に応じてサービス料を払うモデル

ソーラーシェアリング



農地で太陽光発電として活用ができるモデル

7 家庭での効果的な省エネ方法は？

※年間の効果
※買換えは10年前のものとの比較



エアコン

【省エネ行動】

温度管理で削減
39.1kg-CO₂
(2,250円)

【買換え】

10%の省エネ
2,480円の節約



冷蔵庫

【省エネ行動】

温度管理で削減
29kg-CO₂
(1,670円)

【買換え】

46%の省エネ
6,220円の節約



照明

【省エネ行動】

1時間の使用削減
1.6kg-CO₂ (64円)

【買換え】

※LED化した場合
50%の省エネ
1,840円の節約



テレビ

【省エネ行動】

輝度調整で削減
13.2kg-CO₂
(730円)

【買換え】

42%の省エネ
1,650円の節約

8 オフィスなどでの省エネは？

高効率な機器の導入以外にも次のような取組が有効です。

取組の内容		建物全体に対する節電効果	
		オフィスビル	卸・小売店
執務エリアや店舗の照明を半分程度間引きする	夏	△13%	△13%
	冬	△8%	△10%
使用していないエリアの消灯を徹底	夏	△3%	△2%
	冬	△3%	△3%
冷暖房の温度設定を適切に行う (夏28℃、冬20℃)	夏	△4%	△4%
	冬	△4%	△8%
長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする	夏	△3%	—
	冬	△2%	—
室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定の停止、または間欠運転によって外気取入れ量を調節	夏	△5%	△8%
	冬	△4%	△12%
ブラインドや遮光フィルム、ひさし、すだれを活用し、日射を遮る	夏	△3%	—
	冬	△1%	—
夕方以降はブラインド、カーテンを閉め、暖気を逃がさないようにする	夏	—	△8%
	冬	—	△12%

【出典】経済産業省の資料を基に再構成したもの

9 森林のCO₂吸収量を増やすには？

木は一定程度成長すると、CO₂の吸収量が少なくなります。そのため、木材利用や森林保全のために、定期的に伐採や間伐を行い、その後に植林することでCO₂の吸収量を増やすことができます。



【出典】政府広報

用語解説

○ZEH（ゼッチ）

ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスのことで、太陽光発電などのエネルギーで消費するエネルギーの量を実質的にゼロ以下にする家のことです。

○LCCM住宅

ライフ・サイクル・カーボン・マイナス住宅のことで、住宅の建設、居住、廃棄までの住宅のライフサイクルにおいてトータルでCO₂の収支をマイナスにする住宅のことです。

○ZEB（ゼブ）

ネット・ゼロ・エネルギー・ビルのことで、太陽光発電などのエネルギーで消費するエネルギーの量を実質的にゼロ以下にする家のことです。

○ガス化・電化

重油や軽油で熱やエネルギーを得ている冷暖房等をガスによるものに更新することでCO₂排出量を減らすことができます。また、同様に電気にし、再生可能エネルギー利用とすることでCO₂排出量をゼロにすることができます。

○コージェネ

コージェネレーションシステムのことで、ガス等を燃料として発電し、その際に発生する熱を給湯や冷暖房等に利用することでエネルギー効率を向上させる機器のことです。

○クレジット

再エネの設置、省エネ機器の導入、森林管理などの実績を取引可能な形態にしたもので、購入者は、自ら排出したCO₂と相殺することができます。

○CCUS

「Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage」の略で、分離・貯留したCO₂を利用しようというものです。

○ヒートポンプ

空気中などから熱を集めて、大きな熱エネルギーとして利用する技術で、冷暖房などに利用されています。

○電動車

電気自動車だけでなく、ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車も含む、電気で動く車のことです。

○スマートムーブ

なるべくCO₂排出量の少ない移動手段を選択することです。